

人・農地プラン(地域農業マスタープラン)について

農業が厳しい状況に直面している中で、持続可能な力強い農業を実現するためには、基本となる人と農地の問題を一体的に解決していく必要がありますが、そのためには、それぞれの集落・地域において徹底的な話し合いを行い、集落・地域が抱える人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」となる「人・農地プラン(地域農業マスタープラン)」を作成する必要があります。

● 人・農地プラン(地域農業マスタープラン)を作成するためには、

☆集落・地域が抱える「人と農地の問題解決」のため集落における話し合いによって

- ・今後の中心となる経営体はどこか。
- ・中心となる経営体へどうやって農地を集めるか。
- ・中心となる経営体とそれ以外の農業者(兼業農家・自給的農家)を含めた地域農業のあり方などを決めます。

● 人・農地プラン(地域農業マスタープラン)作成のメリット

1. 青年就農給付金(経営開始型)

就農開始から最長5年間、年間150万円を給付。

2. スーパーL資金の当初5年間無利子化

借り受け当初の負担軽減のため利子補給を行う。

3. 規模拡大加算 <要件が緩和されます>

農地利用集積円滑化事業により、面的集積するために利用権を設定した農地の面積に応じて、その農地の「受け手に」交付金(2万円/10a)を交付。(条件:自作地の近辺)

※ 本制度を受ける場合は、集落単位で作成する人・農地プランに新規就農者や地域の中心となる経営体として位置付けられる必要があります。

※ 制度の対象となる経営体については、その他条件があります。

【お問合せ先】農政課 内線178

故上村晃晟氏 旭日単光章を受章

3期12年にわたり町議会議員として、豊かな社会づくりと町民福祉の向上に多大な貢献をされた、上城字の上村晃晟氏(故人)が、このたび旭日単光章を受章され、4月3日、町長室においてご家族に対し叙勲の伝達が行われました。

上村氏は、ウイーン交響楽団公演の実現に奔走するなど文化行政の発展に尽力したほか、民族芸能・無形文化財の保存・継承の推進にも貢献されました。また、昭和46年から6年間、上城字区長として住民の自治意識の高揚と地域の活性化を図るとともに、地域住民の生活の向上発展に尽力されました。



宝田ダムが竣工

航空自衛隊沖永良部島分屯基地近くに建設していた宝田ダムが完成し、3月26日に竣工式が開催されました。

宝田ダムは、大高山頂部にある沖永良部島最大の水源かん養林地帯ですが、昭和28年の米軍レーダー基地(昭和48年航空自衛隊へ移管)建設に伴い、かん養林地約20万平方メートルが消失しました。これにより下流にある農耕地帯では水不足に悩まされたことから、農業用水の安定供給を図ろうと、沖永良部島分屯基地周辺障害防止対策事業として総事業費7億4660万円かけてダムが整備されました。



宝田ダムは堤高16メートル、堤頂長72・5メートル、総貯水容量2万3300立方メートル、うち利水容量は1万6000立方メートル。受益地の畑地14畝に1日最大494立方メートルの農業用水を補給することができます。